

II 北海道農業・農村の将来予測

1. 農家戸数

【予測手法】

- 手順1：1995年及び2000年の『農業センサス』で明らかにされた年齢別世帯員数に基づき、コーホート・センサス間移動率法により212市町村別の将来の農家人口を算出する（付表1に212市町村別の農家人口の予測結果を示した。）。
- 手順2：『農業センサス』により2000年における212市町村別の農家1戸当たり平均世帯員数を求める。
- 手順3：農家1戸当たり平均世帯員数の1995～2000年における北海道平均の減少率（2.3389%）が2000年以降も継続すると仮定して212市町村別の将来の農家1戸当たり平均世帯員数を算出する。
- 手順4：手順1で求めた農家人口の予測値を手順2で求めた農家1戸当たり平均世帯員数の予測値で除して212市町村別の将来の農家戸数を算出する（付表3に212市町村別の農家戸数の予測結果を示した。）。
- 手順5：以上の手順で求めた212市町村別の農家戸数の予測値を積み上げて、北海道全体および地域別にみた農家戸数の予測値を求める。

※ 付表3に示したように、江差町と中札内村については将来の農家戸数が増加する。これは、1995～2000年の農家人口が増加したためである。農業センサスで示されている農家人口（農家世帯員数）は法人経営を調査対象としていないが、法人が解散した場合には農家戸数と農家人口が増加することがあり得る。また、新規就農等も農家人口の増加要因として考えられる。

【予測結果】

2000年に69,841戸を数えた北海道の農家戸数は、2005年には59,641戸、10年には49,652戸、15年には40,628戸にまで減少すると予測される（図5）。1985～2000年における農家減少率が36%であったのに対して、2000～15年の農家減少率は42%と見込まれる。

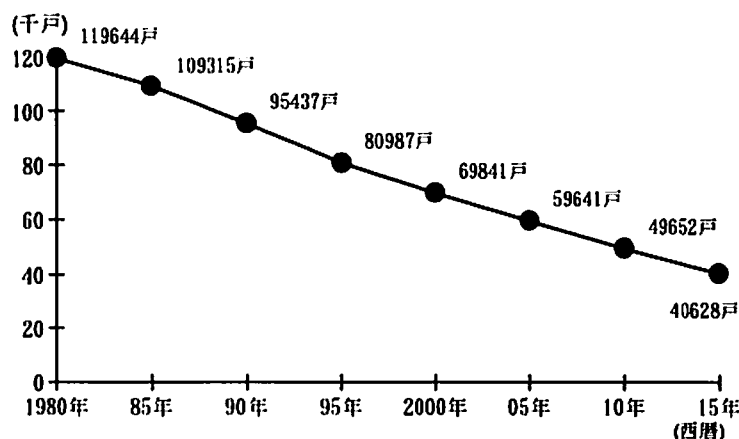


図5 農家戸数の将来予測（北海道）

注：1980～2000年の農家戸数は『農業センサス』による。

表38 地域別農家戸数の将来予測

(単位: 戸、%)

地域区分	農家戸数				2000年を基準とした指数			
	2000年	05年	10年	15年	2000年	05年	10年	15年
道央圏都市的地域	3,920	3,226	2,581	1,973	100	82	66	50
道央圏平地農業地域	14,674	12,622	10,582	8,651	100	86	72	59
道央圏中山間地域	10,091	8,816	7,494	6,275	100	87	74	62
道南圏	7,207	5,988	4,825	3,794	100	83	67	53
道北圏北部地域	1,706	1,414	1,151	920	100	83	67	54
道北圏南部地域	14,052	11,681	9,459	7,522	100	83	67	54
オホーツク圏	6,973	5,908	4,898	4,034	100	85	70	58
十勝圏	7,582	6,758	5,892	5,097	100	89	78	67
釧路・根室圏	3,636	3,226	2,772	2,362	100	89	76	65
北海道計	69,841	59,641	49,652	40,628	100	85	71	58

地域別には、十勝圏と釧路・根室圏の2地域においては今後とも比較的良く農家戸数が維持されると見込まれるものの、道央圏都市的地域、道南圏、道北圏北部地域、道北圏南部地域の4地域において高い減少率が見込まれる(表38)。

2. 耕地面積・経営耕地面積・農家1戸当たり平均経営耕地面積

【予測手法】

－耕地面積－

- 手順1: 『北海道農林水産統計年報』により1995～2000年における212市町村別の地目別耕地面積の増減量を求める。
- 手順2: 1995～2000年の地目別耕地面積の増減量が今後とも継続するという仮定で212市町村別の将来の地目別耕地面積を予測する。
- 手順3: 以上の手順で求めた212市町村別の地目別耕地面積の予測値を積み上げて、北海道全体および地域別にみた地目別耕地面積の予測値を求める。

－経営耕地面積・農家1戸当たり平均経営耕地面積－

- ※ 耕地に関する統計は、『北海道農林水産統計』で耕地面積の統計量が示されているほかに、『農業センサス』において経営耕地面積の統計量が示されている。そこで、以下では経営耕地面積の推移に関する将来予測も試みた。
- 手順1: 『農業センサス』により1995～2000年における212市町村別の地目別経営耕地面積の増減量を求める。
- 手順2: 1995～2000年の地目別経営耕地面積の増減量が今後とも継続するという仮定で212市町村別の将来の地目別経営耕地面積を予測する(付表4に212市町村別の経営耕地面積の予測結果を示した。)
- 手順3: 以上の手順で求めた212市町村別の地目別経営耕地面積の予測値を積み上げて、

北海道全体および地域別にみた地目別経営耕地面積の予測値を求める。

手順4：経営耕地面積の予測値を農家戸数の予測値で除して農家1戸当たり平均経営耕地面積を算出する（付表5に212市町村別の農家1戸当たり平均経営耕地面積の予測結果を示した。）。

【予測結果】

－耕地面積－

北海道の耕地面積は、2005年には116万8千ha、10年には115万3千ha、15年には114万1千haになると予測される（図6）。2000年現在の耕地面積118万5千haと比較すると、それぞれ1万7千ha、3万2千ha、4万4千haの減少が見込まれ、近い将来において1980年水準の耕地面積に逆戻りすることに留意すべきであろう。

地域別には、道央圏平地農業地域、十勝圏、釧路・根室圏の3地域において、今後とも比較的良く耕地面積が維持されると見込まれる（表39）。これに対して、道央圏都市的地域、道南圏、道北圏北部地域、オホーツク圏の4地域では、相対的に高い減少率が見込まれる。特に、オホーツク圏における今後15年間の耕地面積の減少幅が大きく、本道全体の

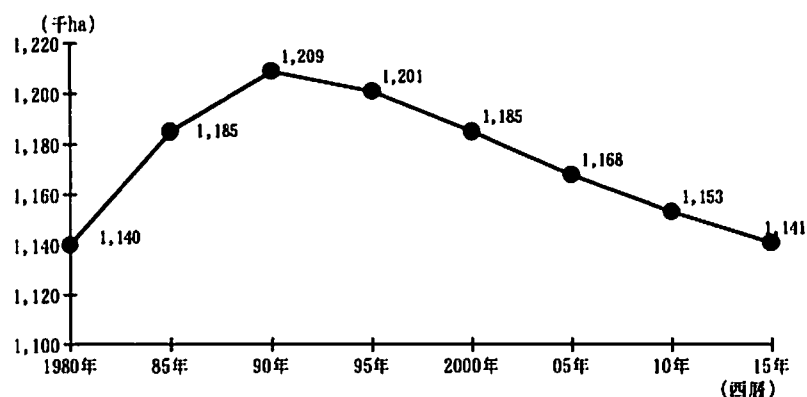


図6 耕地面積の将来予測（北海道）

注：1980～2000年の耕地面積は『北海道農林水産統計年報』による。

表39 地域別耕地面積の将来予測

(単位：ha、%)

地域区分	耕地面積				2000年を基準とした指数			
	2000年	05年	10年	15年	2000年	05年	10年	15年
道央圏都市的地域	29,504	28,316	27,134	25,959	100	96	92	88
道央圏平地農業地域	139,437	139,176	137,908	136,678	100	100	99	98
道央圏中山間地域	112,026	110,135	108,407	107,301	100	98	97	96
道南圏	47,600	46,003	44,543	43,742	100	97	94	92
道北圏北部地域	80,860	78,856	76,972	75,100	100	98	95	93
道北圏南部地域	141,240	139,705	138,214	136,861	100	99	98	97
オホーツク圏	170,500	166,522	162,796	159,307	100	98	95	93
十勝圏	258,800	257,306	256,689	256,094	100	99	99	99
釧路・根室圏	203,600	202,010	200,782	200,061	100	99	99	98
北海道計	1,185,000	1,168,029	1,153,445	1,141,103	100	99	97	96

表40 地域別・地目別耕地面積の将来予測

(単位: ha、%)

地目	地域区分	経営耕地面積				2000年を基準とした指数			
		2000年	05年	10年	15年	2000年	05年	10年	15年
田	道央圏都市的地域	9,604	9,482	9,368	9,261	100	99	98	96
	道央圏平地農業地域	107,130	106,326	105,505	104,684	100	99	98	98
	道央圏中山間地域	25,828	25,103	24,419	23,743	100	97	95	92
	道南圏	16,790	16,415	16,037	15,659	100	98	96	93
	道北圏北部地域	-	-	-	-	-	-	-	-
	道北圏南部地域	71,490	70,517	69,554	68,591	100	99	97	96
	オホーツク圏	3,270	2,527	1,829	1,152	100	77	56	35
	十勝圏	896	22	-	-	100	2	-	-
	釧路・根室圏	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道計	235,000	230,392	226,712	223,090	100	98	96	95	
畑	道央圏都市的地域	19,727	18,683	17,629	16,575	100	95	89	84
	道央圏平地農業地域	32,742	32,254	31,762	31,308	100	99	97	96
	道央圏中山間地域	84,054	82,934	81,966	81,603	100	99	98	97
	道南圏	30,639	29,463	28,408	28,010	100	96	93	91
	道北圏北部地域	80,858	78,854	76,970	75,098	100	98	95	93
	道北圏南部地域	69,340	68,750	68,181	67,749	100	99	98	98
	オホーツク圏	167,155	163,948	160,918	158,103	100	98	96	95
	十勝圏	257,793	257,190	256,604	256,018	100	100	-	-
	釧路・根室圏	203,600	202,010	200,782	200,061	100	99	99	98
北海道計	945,970	934,086	923,220	914,525	100	99	98	97	
樹園地	道央圏都市的地域	165	151	137	123	100	92	83	75
	道央圏平地農業地域	560	596	641	686	100	106	114	123
	道央圏中山間地域	2,194	2,098	2,022	1,955	100	96	92	89
	道南圏	161	125	98	73	100	78	61	45
	道北圏北部地域	2	2	2	2	100	100	100	100
	道北圏南部地域	400	438	479	521	100	110	120	130
	オホーツク圏	45	47	49	52	100	104	109	116
	十勝圏	107	94	85	76	100	88	79	71
	釧路・根室圏	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道計	3,630	3,551	3,513	3,488	100	98	97	96	

注: 畑は普通畑と牧草専用地を合わせた面積。

減少見込み面積4万4千haの25%に相当する耕地面積の減少がオホーツク圏で発生するものと予想される。

地目別には、2000～15年にかけて田が1万2千ha減少し、畑（樹園地を含む）が3万2千ha減少するものと見込まれる（表40）。

－経営耕地面積－

北海道の経営耕地面積は、2005年には97万1千ha、10年には94万5千ha、15年には92万1千haになると予測される（図7）。2000年現在の経営耕地面積99万7千haと比較すると、それぞれ2万ha、5万2千ha、7万6千haの減少が見込まれる（図7）。『北海道農林水産統計年報』の統計量に基づく耕地面積の将来予測値と比較すると、減少見込み面積が大幅に増加する予測結果となっている。

地域別には、十勝圏、釧路・根室圏の2地域において今後とも比較的良く耕地面積が維持されると見込まれるものの、道央圏都市的地域、道央圏中山間地域、道南圏、道北圏南部の4地域において、相対的に高い減少率が見込まれる(表41)。『北海道農林水産統計年報』の統計量に基づく地域別の耕地面積の将来予測値と比較すると、経営耕地面積の減少率の高い地域の予測結果が異なるが、これは『農業センサス』の統計量に基づく予測ではより大きな田面積の減少が見込まれる結果となることに起因しており、現状において1万ha以上の田面積を有する5地域(道央圏都市的地域、道央圏平地農業地域、道央圏中山間地域、道南圏、道北圏南部)の経営耕地面積の減少率が高まるためである。

地目別には、2000～15年にかけて田が3万ha減少し、畑(樹園地を含む)が4万6千ha減少するものと見込まれる(表42)。

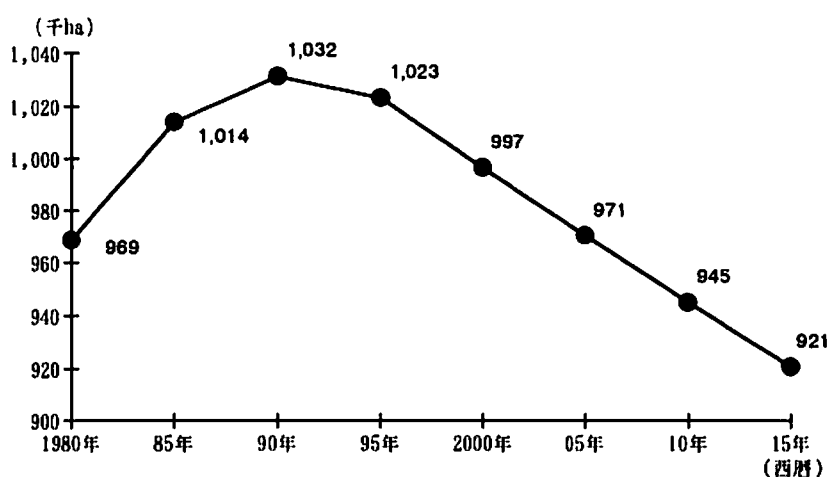


図7 経営耕地面積の将来予測(北海道)

注：1980～2000年の経営耕地面積は『農業センサス』による。

表41 地域別経営耕地面積の将来予測

(単位：ha、%)

地域区分	経営耕地面積				2000年を基準とした指数			
	2000年	05年	10年	15年	2000年	05年	10年	15年
道央圏都市的地域	23,663	21,667	19,673	17,728	100	92	83	75
道央圏平地農業地域	124,675	120,993	117,347	113,831	100	97	94	91
道央圏中山間地域	85,508	81,412	77,470	74,334	100	95	91	87
道南圏	35,088	32,297	29,564	26,877	100	92	84	77
道北圏北部地域	65,969	64,087	62,205	60,324	100	97	94	91
道北圏南部地域	122,256	117,329	112,424	107,592	100	96	92	88
オホーツク圏	145,140	142,170	139,240	136,348	100	98	96	94
十勝圏	212,870	210,661	208,500	206,478	100	99	98	97
釧路・根室圏	181,468	180,084	178,700	177,316	100	99	98	98
北海道計	996,637	970,699	945,124	920,828	100	97	95	92

表42 地域別・地目別経営耕地面積の将来予測

(単位: ha, %)

地目	地域区分	経営耕地面積				2000年を基準とした指数			
		2000年	05年	10年	15年	2000年	05年	10年	15年
田	道央圏都市的地域	10,197	9,270	8,344	7,417	100	91	82	73
	道央圏平地農業地域	104,023	101,424	98,826	96,228	100	98	95	93
	道央圏中山間地域	22,698	21,060	19,535	18,323	100	93	86	81
	道南圏	13,930	12,841	11,785	10,736	100	92	85	77
	道北圏北部地域	-	-	-	-	-	-	-	-
	道北圏南部地域	68,648	65,545	62,444	59,402	100	95	91	87
	オホーツク圏	4,301	3,578	2,895	2,249	100	83	67	52
	十勝圏	440	223	49	0	100	51	11	0
	釧路・根室圏	-	-	-	-	-	-	-	-
	北海道計	224,236	213,940	203,878	194,355	100	95	91	87
畑	道央圏都市的地域	13,332	12,259	11,187	10,164	100	92	84	76
	道央圏平地農業地域	20,328	19,291	18,254	17,348	100	95	90	85
	道央圏中山間地域	61,032	58,793	56,574	54,846	100	96	93	90
	道南圏	20,992	19,284	17,599	15,951	100	92	84	76
	道北圏北部地域	65,969	64,087	62,205	60,324	100	97	94	91
	道北圏南部地域	53,324	51,472	49,641	47,820	100	97	93	90
	オホーツク圏	140,791	138,544	136,298	134,051	100	98	97	95
	十勝圏	212,324	210,354	208,384	206,414	100	99	98	97
	釧路・根室圏	181,468	180,084	178,700	177,316	100	99	98	98
	北海道計	769,560	754,169	738,842	724,234	100	98	96	94
樹園地	道央圏都市的地域	134	138	142	147	100	102	106	110
	道央圏平地農業地域	325	278	267	256	100	86	82	79
	道央圏中山間地域	1,778	1,559	1,360	1,166	100	88	76	66
	道南圏	166	173	181	190	100	104	109	115
	道北圏北部地域	-	-	-	-	-	-	-	-
	道北圏南部地域	284	311	340	369	100	109	120	130
	オホーツク圏	48	47	47	47	100	99	98	99
	十勝圏	106	84	67	64	100	79	63	60
	釧路・根室圏	0	-	-	-	100	-	-	-
	北海道計	2,842	2,590	2,405	2,239	100	91	85	79

注: 畑は普通畑と牧草専用地を合わせた面積。

- 農家1戸当たり平均経営耕地面積 -

農家1戸当たりの平均経営耕地面積は、2005年には16.3ha、10年には19.0ha、15年には22.7haへと上昇するものと予測される(図8)。

地域別にみると、道央圏都市的地域、道央圏平地農業地域、道央圏中山間地域、道南圏、道北圏南部地域の5地域では、15年時点においても15haの規模に到達しないものと予測される。(表43)。

これに対して、酪農経営に特化した農業が展開している道北圏北部と釧路・根室圏の2地域では、2015年時点における農家1戸当たり平均経営耕地面積が70ha前後の水準に達す

るものと予想され、中には100haを越える市町村が生じると予想される。

畑作と畜産を主体とした農業が展開しているオホーツク圏と十勝圏の2地域では、2015年時点における農家1戸当たり平均経営耕地面積の予測値が30～40ha程度の水準であり、酪農に特化した地域に比べると経営規模拡大は緩やかに進むと見込まれる。ただし、これらの2地域の中でも畜産の占める地位が比較的高い市町村において、平均経営耕地面積が70haを越えるものと予測される。

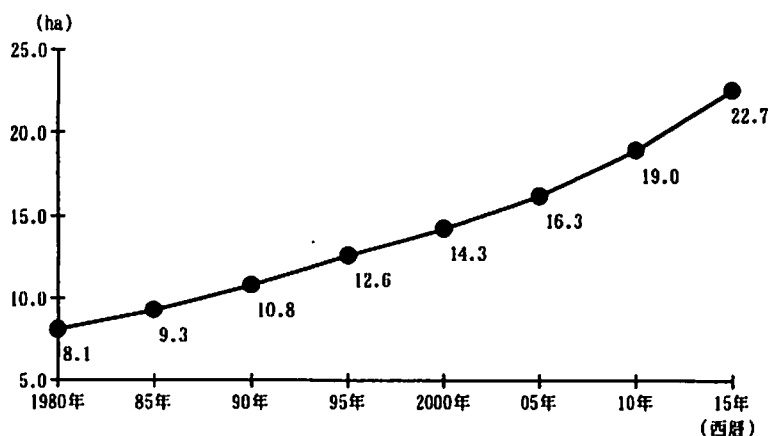


図8 農家1戸当たり平均経営耕地面積の将来予測 (北海道平均)

注：1980～2000年の経営耕地面積は『農業センサス』による。

表43 地域別農家1戸当たり平均経営耕地面積の将来予測

(単位：ha、%)

地域区分	農家1戸当たり平均経営耕地面積				2000年を基準とした指数			
	2000年	05年	10年	15年	2000年	05年	10年	15年
道央圏都市的地域	6.0	6.7	7.6	9.0	100	111	126	149
道央圏平地農業地域	8.5	9.6	11.1	13.2	100	113	131	155
道央圏中山間地域	8.5	9.2	10.3	11.8	100	109	122	140
道南圏	4.9	5.4	6.1	7.1	100	111	126	146
道北圏北部地域	38.7	45.3	54.1	65.6	100	117	140	170
道北圏南部地域	8.7	10.0	11.9	14.3	100	115	137	164
オホーツク圏	20.8	24.1	28.4	33.8	100	116	137	162
十勝圏	28.1	31.2	35.4	40.5	100	111	126	144
釧路・根室圏	49.9	55.8	64.5	75.1	100	112	129	150
北海道平均	14.3	16.3	19.0	22.7	100	114	133	159

3. 乳用牛飼養農家戸数・農家1戸当たり平均乳用牛飼養頭数

【予測手法】

- 手順1：『農業センサス』により1995～2000年における212市町村別の家畜飼養農家戸数の増減量を求める。
- 手順2：1995～2000年の家畜飼養農家戸数の増減率が今後とも継続するという仮定で212市町村別の将来の家畜飼養農家戸数を予測する（付表6に212市町村別の乳用牛飼養農家戸数の予測結果を示した。）。
- 手順3：以上の手順で求めた212市町村別の家畜飼養農家戸数の予測値を積み上げて、北海道全体および地域別にみた家畜飼養農家戸数の予測値を求める。
- 手順4：2000年現在における家畜飼養頭数を家畜飼養農家戸数の予測値で除して農家1戸当たり平均家畜飼養頭数を算出する（2000年現在の家畜飼養頭数を将来にわたって維持するという前提。付表7に212市町村別の1戸当たり平均乳用牛飼養頭数の予測結果を示した。また、付表8に212市町村別の1戸当たり平均経産牛飼養頭数の予測結果を示した。）。

【予測結果】

北海道の乳用牛飼養農家戸数は、2005年には8,193戸、10年には6,998戸、15年には6,030戸まで減少すると予測される（図9）。1985～00年における飼養農家戸数の減少率が47%であったのに対して、2000～15年の減少率は38%と見込まれる。

地域別には、道央圏平地農業地域、道北圏北部地域、釧路・根室圏の3地域において、比較的良く乳用牛飼養農家戸数が維持されるものの、その他の地域においては今後とも激しい減少が予測される（表44）。

また、2000年時点における乳用牛飼養農家頭数を将来にわたって維持するという前提で、

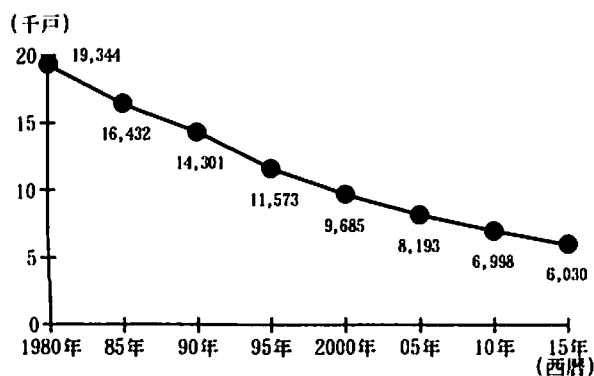


図9 乳用牛飼養農家戸数の将来予測（北海道）

注：1980～2000年の飼養農家戸数は『農業センサス』による。

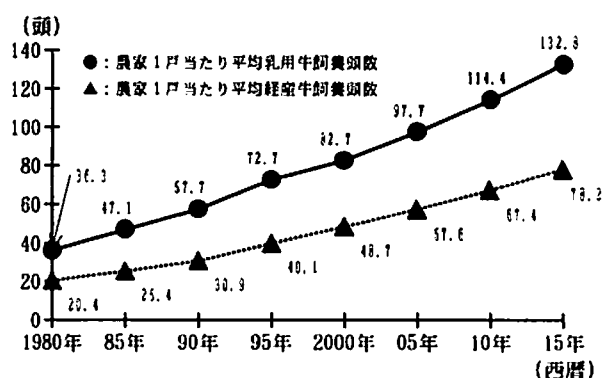


図10 農家1戸当たり平均乳用牛飼養頭数の将来予測

注：1980～2000年の平均飼養頭数は『農業センサス』による。

全道平均の将来における農家1戸当たり平均乳用牛飼養頭数を予測したところ、2005年には97.7頭、10年には114.4頭、15年には132.8頭にまで拡大するという結果を得た(図10)。同様に、農家1戸当たり平均経産牛飼養頭数は、2005年には57.8頭、10年には67.4頭、15年には78.2頭にまで拡大するという結果を得た。

地域別にみても、ほとんどの地域において乳用牛飼養頭数130頭前後、経産牛飼養頭数80頭前後の規模に到達すると見込まれる。(表45、表46)

表44 地域別乳用牛飼養農家戸数の将来予測

(単位:戸、%)

地域区分	乳用牛飼養農家戸数				2000年を基準とした指数			
	2000年	05年	10年	15年	2000年	05年	10年	15年
道央圏都市的地域	225	182	149	123	100	81	66	54
道央圏平地農業地域	142	125	118	121	100	88	83	85
道央圏中山間地域	564	467	393	336	100	83	70	60
道南圏	482	357	271	209	100	74	56	43
道北圏北部地域	1,127	968	835	724	100	86	74	64
道北圏南部地域	491	403	336	284	100	82	68	58
オホーツク圏	1,536	1,263	1,046	872	100	82	68	57
十勝圏	2,098	1,738	1,446	1,207	100	83	69	58
釧路・根室圏	3,020	2,690	2,404	2,153	100	89	80	71
北海道計	9,685	8,193	6,998	6,030	100	85	72	62

表45 地域別農家1戸当たり平均乳用牛飼養頭数の将来予測

(単位:戸、%)

地域区分	農家1戸当たり平均乳用牛飼養頭数				2000年を基準とした指数			
	2000年	05年	10年	15年	2000年	05年	10年	15年
道央圏都市的地域	67	83	102	123	100	124	151	184
道央圏平地農業地域	60	68	72	71	100	113	120	118
道央圏中山間地域	57	69	82	96	100	121	143	168
道南圏	49	66	87	113	100	135	178	230
道北圏北部地域	80	93	108	124	100	116	135	156
道北圏南部地域	72	88	106	125	100	122	146	173
オホーツク圏	76	93	112	134	100	122	147	176
十勝圏	88	107	128	154	100	121	145	174
釧路・根室圏	97	109	122	136	100	112	126	140
北海道平均	83	98	114	133	100	118	138	161

表 4 6 地域別農家1戸当たり平均経産牛飼養頭数の将来予測

(単位:戸、%)

地 域 区 分	農家1戸当たり平均経産牛飼養頭数				2000年を基準とした指数			
	2000年	05年	10年	15年	2000年	05年	10年	15年
道央圏都市的地域	42	52	64	78	100	124	151	184
道央圏平地農業地域	39	44	47	46	100	113	120	118
道央圏中山間地域	37	44	52	61	100	121	143	168
道 南 圏	31	42	56	73	100	135	178	230
道北圏北部地域	48	56	65	75	100	116	135	156
道北圏南部地域	45	55	66	78	100	122	146	173
オホーツク圏	44	54	65	78	100	122	147	176
十 勝 圏	50	60	72	87	100	121	145	174
釧路・根室圏	57	64	71	80	100	112	126	140
北 海 道 平 均	49	58	67	78	100	118	138	161

4. 農家人口・高齢者比率

【予測手法】

※以下に示した手順1～10を212市町村別に繰り返し実施し、予測する年次における212市町村別の農家人口と高齢者比率を求める。また、以下の手順で求めた212市町村別の予測値を積み上げて、北海道全体および地域別農家人口の予測値を求める。

手順1:『農業センサス』(1995年、2000年)で明らかにされた14歳以下の世帯員数を、5歳階級別世帯員数(0～4歳、5～9歳、10～14歳の3区分)に変換する。なお、75歳以上の世帯員数のデータについては、変換せずにそのまま予測に用いる。

手順2:1995年のあるコーホート・ A_n (例えば40～44歳のコーホート)が2000年のコーホート・ A_{n+1} (例えば45～49歳のコーホート)へ移行した時のコーホート変化率を求める。なお、コホートとは、同じ年齢に属している人口のことである。

手順3:2000年のあるコーホート・ A_n に手順2で求めたコーホート変化率を乗じて、2005年のコーホート・ A_{n+1} を推計する。

手順4:推計された2005年のあるコーホート・ A_n に手順2で求めたコーホート変化率を乗じて2010年のコーホート・ A_{n+1} を推計する。

手順5:推計された2010年のあるコーホート・ A_n に手順2で求めたコーホート変化率を乗じて2015年のコーホート・ A_{n+1} を推計する。

手順6:手順1で求めた2000年の0～4歳人口(男女計)を2000年の女子生産年齢人口(15～49歳の女子世帯員数の合計)で除して出生率を求める。

手順7:予測する年次(2005年、2010年、2015年)における女子生産年齢人口に出生率を乗じて予測する年次の0～4歳人口を算出する。

手順8：手順7で算出した0～4歳人口に105/205を乗じて男の0～4歳のコーホートを求め、同様に100/205を乗じて女の0～4歳のコーホートを求める。

手順9：推計した全コーホートを合計し、予測する年次における農家人口を算出する

手順10：推計したコーホートから65歳以上の農家人口を算出し、総農家人口で除して高齢者比率を求める（付表2に212市町村別の高齢者比率の予測結果を示した。）。

【予測結果】

北海道の農家人口は、2005年には235,281人、10年には192,102人、15年には154,334人まで減少すると予測される（図11）。1985～2000年における農家人口の減少率が40%であったのに対して、2000～15年の減少率は45%になると見込まれる。

地域別の農家人口の将来予測結果をみると、農家戸数の予測結果とほぼ一致した傾向を示しており、十勝圏と釧路・根室圏の2地域においては今後とも比較的良く農家人口が維持されると見込まれるものの、道央圏都市的地域、道南圏、道北圏北部地域、道北圏南部地域の4地域において高い減少率が見込まれる（表47）。

農家人口に占める65歳以上人口の構成割合は、2005年までは高まると予測されるが、10年以降はほぼ横這いで推移するものと見込まれる（図12）。

地域別には、道央圏都市的地域、道央圏平地農業地域、道南圏、道北圏南部地域の4地域で、2015年の高齢者比率が35%以上に達すると見込まれるものの、酪農や畑作を主体とする大規模経営が展開する道北圏北部地域、オホーツク圏、十勝圏、釧路・根室圏の4地域では、20～25%程度の高齢者比率にとどまるものと予測される（表48）。

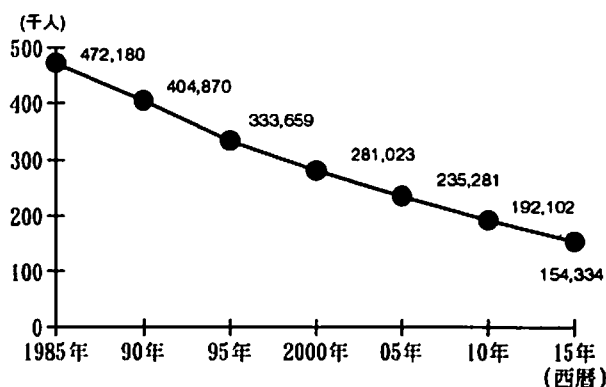


図11 農家人口の将来予測（北海道）

注：1985～2000年の農家人口は『農業センサス』による。

表47 地域別農家人口の将来予測

(単位:人、%)

地域区分	農家人口				2000年を基準とした指数			
	2000年	05年	10年	15年	2000年	05年	10年	15年
道央圏都市的地域	14,265	11,509	9,031	6,772	100	81	63	47
道央圏平地農業地域	57,256	48,175	39,492	31,586	100	84	69	55
道央圏中山間地域	38,305	32,773	27,266	22,373	100	86	71	58
道南圏	26,708	21,686	17,104	13,176	100	81	64	49
道北圏北部地域	6,838	5,545	4,437	3,488	100	81	65	51
道北圏南部地域	53,135	43,144	34,114	26,504	100	81	64	50
オホーツク圏	31,911	26,553	21,602	17,472	100	83	68	55
十勝圏	35,653	31,119	26,587	22,533	100	87	75	63
釧路・根室圏	16,952	14,777	12,469	10,432	100	87	74	62
北海道計	281,023	235,281	192,102	154,334	100	84	68	55

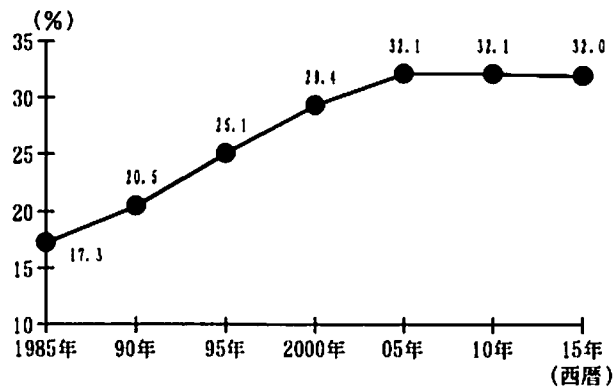


図12 高齢者比率の将来予測(北海道)

注:1985~2000年の高齢者比率は『農業センサス』による。

表48 地域別高齢者比率の将来予測

(単位:%)

地域区分	2000年	2005年	2010年	2015年
道央圏都市的地域	32.8	37.1	39.8	39.5
道央圏平地農業地域	29.8	33.6	35.3	36.4
道央圏中山間地域	30.7	33.1	32.7	32.3
道南圏	32.4	35.8	35.8	35.6
道北圏北部地域	28.7	29.3	26.2	22.4
道北圏南部地域	31.3	35.3	36.7	38.3
オホーツク圏	26.7	27.8	26.2	25.5
十勝圏	25.4	27.4	26.4	25.8
釧路・根室圏	24.5	25.6	22.4	19.6
北海道平均	29.4	32.1	32.1	32.0